

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

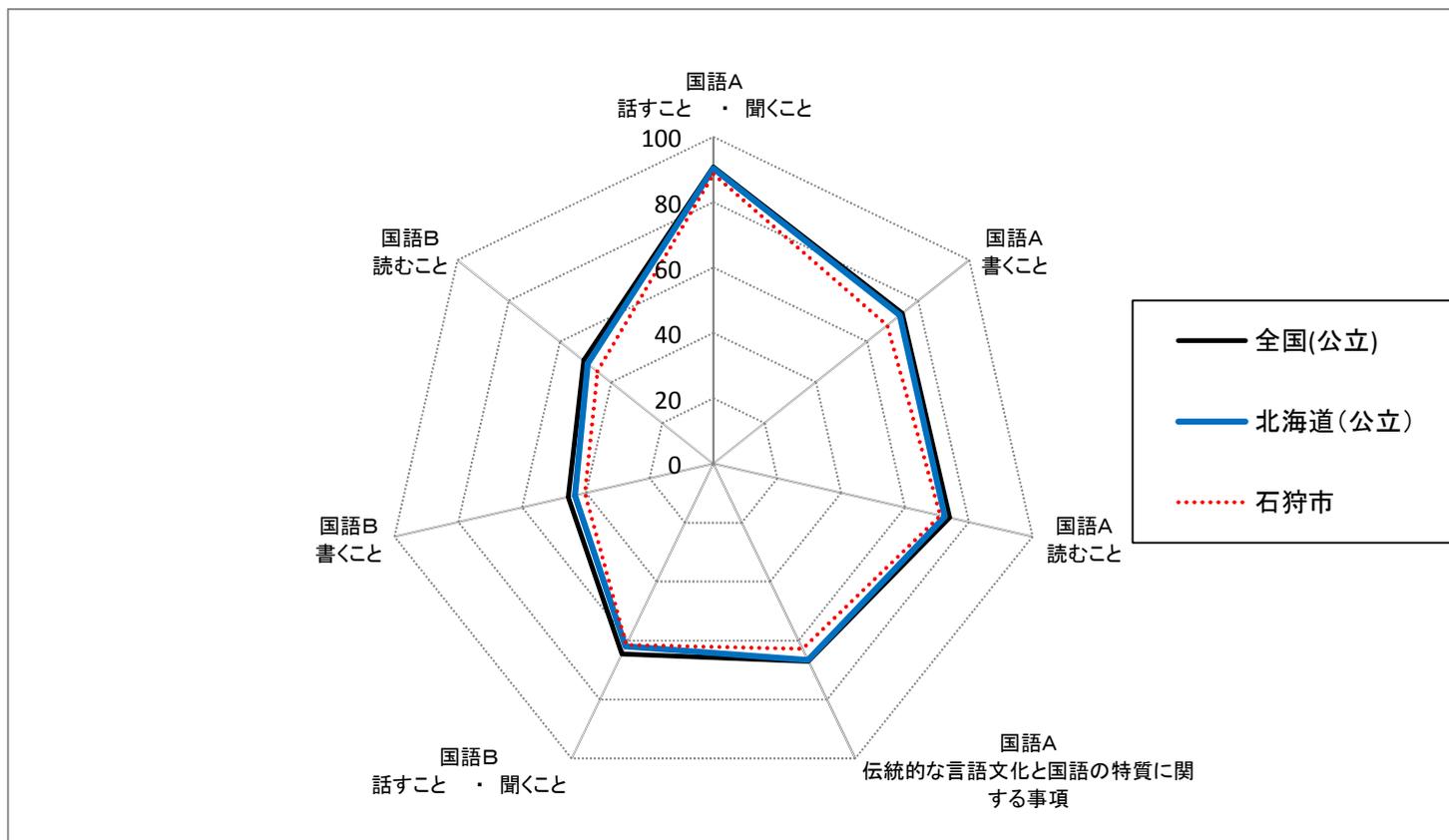
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	8.5問/12問	70.7%	4.4問/ 8問	54.7%
全道(公立)	8.4問/12問	70.1%	4.2問/ 8問	52.7%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 : ○ 全国 : ☆					☆		○							☆		○		

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語A・国語B 領域等の平均正答率の状況 □



□ 国語科の概要 □

- ◇ 国語Aの平均正答率は、全道・全国よりやや低い結果でしたが、昨年度より全国との差が縮まりました。
- ◇ 国語Bの平均正答率は、全道とほぼ同様(下位)で、全国よりもやや低い結果でしたが、昨年度より全国・全道との差が縮まりました。
- ◇ 国語Aの領域では「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全国との差が縮まりましたが、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で差が広がりました。
- ◇ 国語Bの領域では、「読むこと」で全国との差が縮まりましたが、「話すこと・聞くこと」で差が広がりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、国語Aで「選択式」が全国よりやや低く、「短答式」で相当低い結果となりました。
- ◇ 国語Bでは「選択式」が全国より低く、「記述式」でやや低い結果となりました。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

- 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。
- ・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す。
 - ・自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。
 - ・登場人物の心情について、情景描写を基に捉える。
 - ・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。
 - ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う。
 - ・問題数は12問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと」「聞くこと」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道・全国と比べ低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	話すこと 聞くこと	88.6%	90.3%	90.8%
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える	読むこと	72.9%	72.6%	74.0%
8イ	文の中で漢字を使う（せつ備）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.3%	83.3%	82.2%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える	書くこと	67.9%	72.9%	73.8%
5	【春休みの出来事の一部】の中で、-----部と-----部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	28.5%	34.9%	35.5%

【指導の改善にあたって】

【書くこと】

児童が物語を創作する際には、想像したことを思い付くままに表現したり、時系列に沿って書き進めたりします。構成例などを参考に、どのように構成すればより効果的なのかを考えさせ、表現したい思いや表現する楽しさが実感できるように指導することが大切です。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

主語と述語との関係は、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要です。表現するときだけでなく文章を読むときにも意識できるように指導することが大切です。自分の書いた文章を丁寧に何度も読み返していく習慣を身につけることが大切です。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。
- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。
- ・問題数は8問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と同様で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1一	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	話すこと 聞くこと	80.1%	80.6%	82.5%
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】C 最も心がひかれた一文とその理由の文章の <input type="text"/> に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	書くこと 読むこと	48.0%	51.1%	52.3%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 <input type="text"/> を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	話すこと 聞くこと 書くこと	28.3%	29.1%	33.8%
2二	【おすすめする文章】の <input type="text"/> に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	書くこと	11.4%	11.8%	13.5%

【指導の改善にあたって】

【話すこと・聞くこと・書くこと】
話し手の意図を捉え、自分の意見と比べながら考えをまとめるには、相手の意図をしっかり把握し、自分の考えとの類似点や相違点を押さえながらよく整理して書くことが大切です。国語の時間だけでなく、学級会の時間など話し合いの場を捉え、意識して指導することが大切です。

【書くこと】
条件に沿って文章がまとめられるようになるには、字数を制限して文章を書いたり、重要語句を入れて文章をまとめたりするなど、練習の機会を多くもつことが大切です。

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校算数】

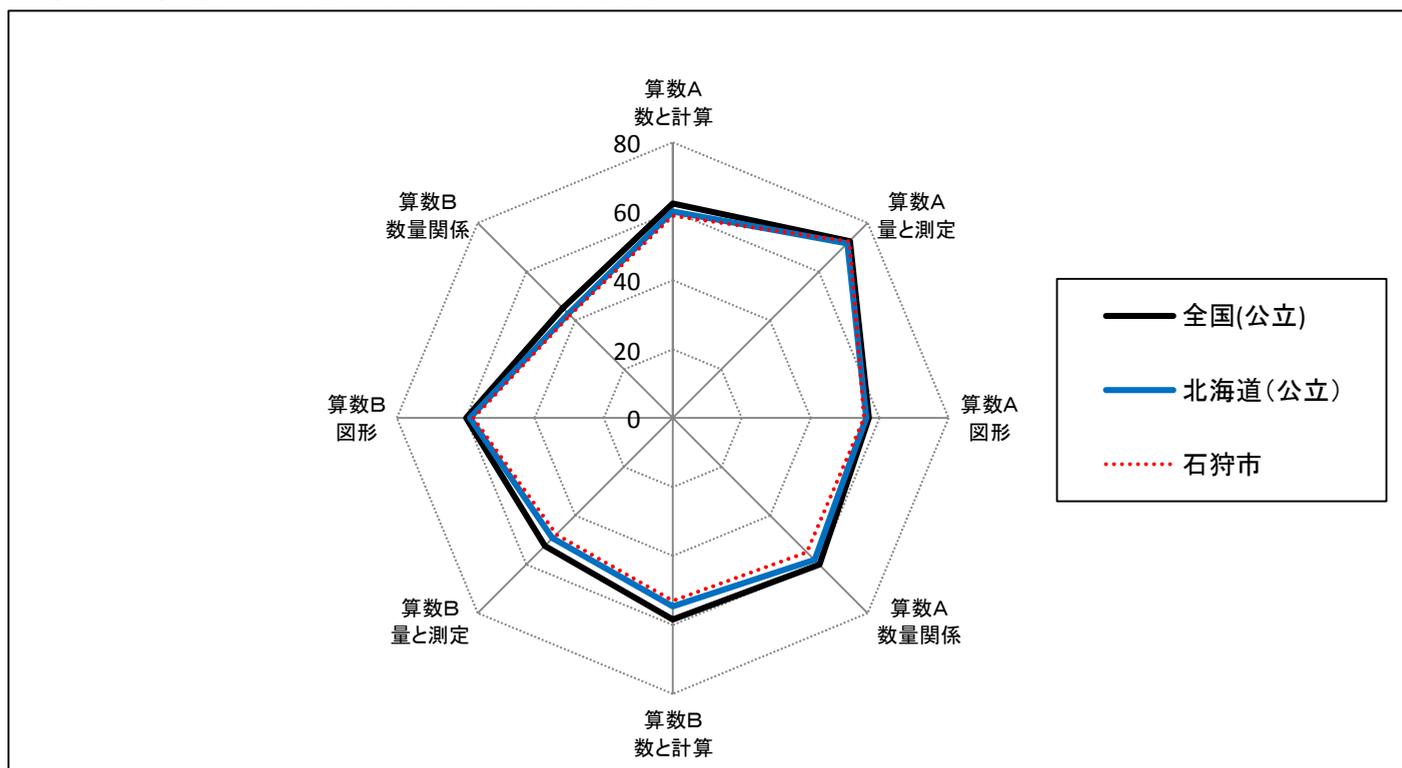
□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	8.9問/14問	63.5%	5.1問/10問	51.5%
全道(公立)	8.7問/14問	62.2%	4.9問/10問	48.7%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆	○								☆		○		

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数A・算数B 領域等の平均正答率の状況 □



□ 算数科の概要 □

- ◇ 算数Aの平均正答率は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の結果となりました。また、昨年度より全道・全国との差が縮まりました。
- ◇ 算数Bの平均正答率は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりもやや低い結果となりましたが、昨年より差が縮まりました。
- ◇ 算数Aの領域では、「量と測定」「図形」で全国との差が縮まり、「数と計算」「数量関係」で差が広がりました。
- ◇ 算数Bの領域では「量と測定」「図形」「数量関係」で全国との差が縮まり、「数と計算」で差が広がりました。
- ◇ 問題形式の正答率では、算数Aで「選択式」が全国とほぼ同様（下位）で、「短答式」がやや低い結果となりました。
- ◇ 算数Bでは「選択式」が全国よりやや低く、「短答式」でほぼ同様（下位）、「記述式」で低い結果となりました。

算数 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・ 3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く。
- ・ 二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。
- ・ 示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を正しく書く。
- ・ 示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ。
- ・ 問題数は14問です。

【各領域の傾向】

- ・ 「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・ 「量と測定」の領域は、全道・全国と同様の傾向にあります。
- ・ 「図形」の領域は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向にあります。
- ・ 「数量関係」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	数と計算	71.0%	68.6%	66.7%
4 (1)	面積がそろっている㊦と㊧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している	量と測定	89.9%	87.1%	87.8%
5 (1)	角㊨の角の大きさが、何度であるかを選ぶ	180°の角の大きさを理解している	量と測定	94.1%	93.8%	94.4%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2	答えが12÷0.8の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している	数と計算	32.4%	34.5%	39.9%
7 (2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	直径の長ささと円周の長さの関係について理解している	図形 数量関係	48.4%	53.8%	55.6%
8	200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	百分率を求めることができる	数量関係	48.8%	52.5%	52.9%

【指導の改善にあたって】

【数と計算】
 数量の関係を的確に捉え立式できるようにするためには、図や数直線などを用いて考えることが効果的です。また、1に当たる大きさを求める場合には、除法が用いられること、1より小さい数で割ると答えがもとの数より大きくなることなど理解させ、繰り返し練習させることが大切です。

【図形】
 直径の長ささと円周の長さの関係について理解させるには、作業的・体験的な活動を通して、直径の長さが2倍になるとき、円周の長さも2倍になることを理解させることが大切です。

【数量関係】
 百分率を求めるには、問題場面で何が基準量・比較量になるかを捉えさせ、比較量÷基準量で割合を求めることができること、その際、基準量を100として、それに対する割合で表す方法が百分率であることを繰り返し指導することが大切です。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題で構成されています。

- 示された考え方を解釈し、50秒、60秒の場合に適用して、その結果を表に整理することで、条件に合う時間を判断する。
- 折り紙の枚数が足りる理由を、示された数量を関連付け、根拠を明確にして記述する。
- 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述する。
- メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。
- 問題数は10問です。

【各領域の傾向】

- 「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国より低い傾向を示しています。
- 「量と測定」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- 「図形」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- 「数量関係」の領域は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる	図形	74.4%	72.6%	71.7%
2 (1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	数と計算 量と測定 数量関係	69.3%	69.6%	70.5%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
3 (1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	数量関係	14.4%	18.3%	20.7%
4 (2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	数と計算	52.6%	55.5%	59.5%
5 (1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	数と計算 量と測定	34.2%	38.3%	43.2%

【指導の改善にあたって】

【数量関係】
算数に限らず、他教科の学習や日常生活の問題の解決においても、目的やデータの種類に応じてグラフを作成したり、複数のグラフを関連づけて考えがまとめられるようにすることが大切です。

【数と計算】
児童自らが数の関係を見出したり、その数の関係が他の場合でも成り立つこと発見することは算数のおもしろさです。確かめた数の関係を的確に表現できるように日頃から指導することが大切です。

【数と計算・量と測定】
日常生活の問題解決に数学的な考えを取り入れ、判断した理由が分かりやすく相手に伝わる内容になっているかノート指導などを通して点検する必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- 「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の61.9%、全国の64.0%に対して石狩市は62.1%で、全道より0.2ポイント高く、全国より1.9ポイント低くなっています。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.8%、全国の92.1%に対して石狩市は94.0%で、全道より2.2ポイント、全国より1.9ポイント高くなっています。
- 「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の81.7%、全国の83.4%に対して石狩市は82.6%で、全道より0.9ポイント高く、全国より0.8ポイント低くなっています。

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校理科】

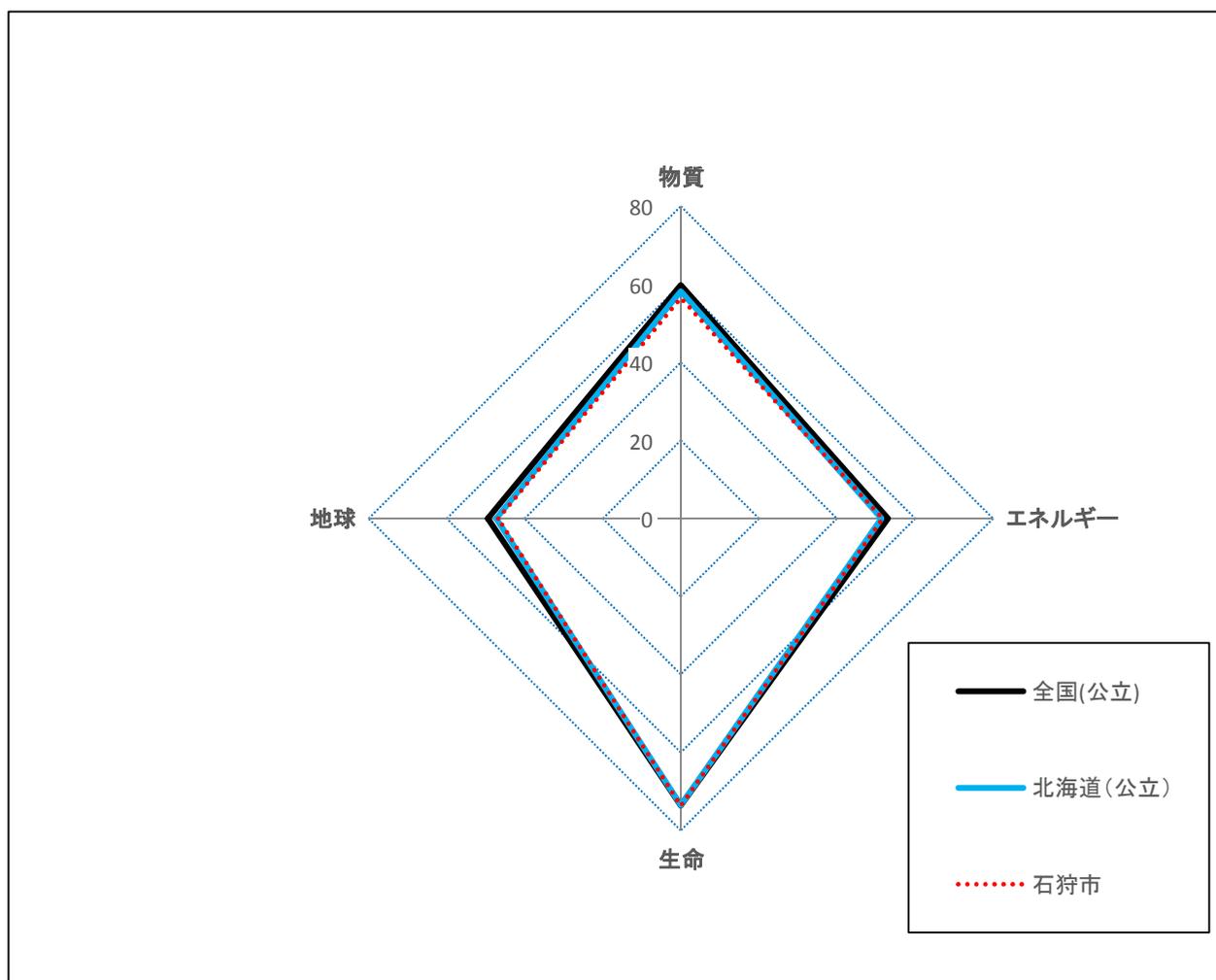
□ 正答率の状況 □

	理科(主として「知識・活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.6問/16問	60.3%
全道(公立)	9.4問/16問	58.8%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
全国 : ☆									

相当高い … 7ポイント以上の範囲
 高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内
 やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内
 同様 … ±1ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
 やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
 低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
 相当低い … -7ポイント以下の範囲

□ 理科 区分等の平均正答率の状況 □



□ 理科の概要 □

- ◇ 平均正答率は、全道と同様で、全国とほぼ同様(下位)の結果となりました。また、27年度より全道・全国の差が縮まりました。
- ◇ 区分では、「エネルギー」「生命」「地球」で全国との差が縮まりましたが、「物質」では全国との差は広がりました。
- ◇ 問題形式では「選択式」が全国とほぼ同様(下位)で、「短答式」「記述式」が低い結果となりました。

理科（「知識」・「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用ができるかをみる、以下の問題で構成されています。

- ・骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解する。
- ・堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解する。
- ・ろ過の適切な操作を身に付ける。
- ・人の腕の曲がる仕組みを模型に適用する。
- ・より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する。
- ・土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する。
- ・実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善する。
- ・問題数は16問です。

【各区分の傾向】

- ・「物質」は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「エネルギー」は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「生命」は、全道・全国と同様の傾向にあります。
- ・「地球」は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	区分	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1（3）	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	生命	85.0%	82.5%	79.4%
2（1）	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	地球	83.1%	79.5%	83.6%
4（1）	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方法を身に付けている	物質	71.7%	71.7%	71.1%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	区分	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2（3）	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く	より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	地球	15.2%	17.4%	20.1%
3（3）	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる	エネルギー	53.7%	57.1%	59.4%
4（4）	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	物質 地球	30.7%	35.0%	35.9%

【指導の改善にあたって】

【地球】
 実験結果である倒れた棒の本数を表などに整理して、考えの根拠となる事実を明確にすることが大切です。その上で、解釈した内容が問題と正対しているか確認することが大切です。

【エネルギー】
 実験結果を予想し、実験から得られた結果と照応させながら妥当な考えにしていくことが大切です。その際に、友達の考えを聞いたり、予想と結果を比べやすいように工夫することが大切です。

【物質・地球】
 自分のまとめが実験結果に基づいた内容になっているかどうか見直させることが大切です。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の86.8%、全国の83.5%に対して石狩市は88.4%で、全道より1.6ポイント高く、全国より4.9ポイント高くなっています。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の85.2%、全国の85.4%に対して石狩市は84.7%で、全道より0.5ポイント、全国より0.7ポイント低くなっています。
- ・「理科の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.7%、全国の89.4%に対して石狩市は93.8%で、全道より2.1ポイント、全国より4.4ポイント高くなっています。